

## 新生児医療連絡会 2024年第1回役員会 議事録

日 時：2024年4月20日(土)8:00～9:00

会 場：九州医療センター 外来棟 4階研修室

出席者：長和俊、諫山哲哉、水野克巳、内山温、杉浦弘、山田恭聖、芳本誠司、三浦真澄、落合正行、岩井正憲、徳久琢也、猪俣慶、祝原賢幸、寺澤大祐、荒堀仁美、豊奈々絵、和田雅樹、大木茂、福原里恵

欠席者：長屋建、松本敦、渡辺達也、細野茂春、飛弾麻里子、小田新、吉田丈俊、隅清彰、熊谷健、影山操、日下隆、中田裕生、藤岡一路、置塩英美、和田和子、中村友彦、板橋家頭夫、田村正徳、楠田聡、中尾英人、西久保敏也、南宏尚

(議題録中すべて敬称略)

### I. 報告事項

#### 1. 会員状況 (2024年4月20日現在) (杉浦 弘)

1) 会員数 **472名** (前回役員会以降の入会申請 11名、退会者 31名)

5万円以上の会費滞納金がある会員に継続の意思を確認したところ、退会された人が多くみられた。

会員費は65歳以上で無料となるが、本人からの申し出がある場合に無料となる。個別にお知らせしているわけではなく、全体にお知らせしている。年1回程度はお知らせしたほうがよい。

2) NICU代表 **246施設**

#### 2. News Letter No.70の発行 (荒堀仁美)

2024年2月1日に発行した。

#### 3. 看護師資格に関するアンケート結果報告 (荒堀仁美)

働き方改革におけるタスクシェア・シフトを考えるために実施した看護師の資格についての調査について、結果を報告した。

#### 4. 調剤用パンビタン®未使用状況に関するアンケート結果報告 (落合正行)

製薬会社から日本成育医学会薬事委員会宛に販売中止の申し出があったため調査した。唯一の総合ビタミン剤であり、必要性を訴えたところ、一旦販売継続の方針となった。ただし、再度販売中止の話が出てくることも想定され、健康補助食品扱いになるなどの可能性がある。

また、エスポー®が販売中止となるようだが、エボジン®や他の製剤もあり、当面困

ることではない。なお、長時間作用型製剤については大規模な研究が米国でされ効果があると発表されていたが、まだ論文発表には至っていない。

## 5. 「被災地の避難所等で生活する赤ちゃんのためのQ&A」

### 転載許諾の取り扱い (杉浦 弘)

「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのためのQ & A」の転載について新生児成育医学会より依頼があり、緊急対応が求められる発災時という状況に鑑み、連絡会への許諾手続きについて以下のとおりお認めすることとした。

- ・事前の転載許諾申請は不要とし、事後報告を学会宛に行うこと。
- ・使用の際は出典を明記すること。
- ・データの改編および商業目的の使用は不可であること。

## 6. 今後の予定 (杉浦 弘)

### 1) 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会 (大阪) 2日目

- ・2024年第2回役員会 7月14日(日)8:00~9:00 大阪国際会議場
- ・2024年第1回総会 7月14日(日)18:00~20:00 大阪国際会議場 10階1009

### 2) 第68回日本新生児成育医学会学術集会 (松本) 1日目

- ・2024年第3回役員会 11月8日(金)昼食時
- ・2024年第2回総会 11月8日(金)夜

## II. 協議事項

### 1. 2023年度決算報告 (荒堀仁美)

決算概要について報告し、承認を得た。

### 2. 新入会 (2023/11/4~2024/4/20) (杉浦 弘)

以下の新入会会員について承認を得た。

23/11/04	近藤雅楽子	(東京都立墨東病院 新生児科)
23/11/22	中嶋 敏紀	(小倉医療センター 小児科)
23/12/02	藤吉 順子	(九州医療センター 小児科)
23/12/21	利光 充彦	(和歌山県立医科大学附属病院 小児科)
24/01/06	玉置 一智	(たくこどもクリニック 小児科・小児在宅医療)
24/01/06	江頭 智子	(佐賀病院 小児科)
24/02/07	内田優美子	(奈良県立医科大学附属病院 新生児集中治療部門)
24/02/07	渡邊 真平	(東北大学病院 周産母子センター)
24/02/13	扇谷 絢子	(奈良県総合医療センター NICU)

24/03/01 安岡 和昭 (九州大学病院 小児科)  
24/04/01 大橋 祥子 (東京都立大塚病院 新生児科)

### 3. 幹事・都道府県代表の交代 (杉浦 弘)

以下の幹事の交代、都道府県代表の交代について、承認を得た。

#### 1) 幹事

##### 東北幹事

・渡辺 達也 (宮城県立こども病院) ⇒新井浩和 (秋田赤十字病院)

##### 近畿幹事

・芳本 誠司 (兵庫県立こども病院) ⇒河井昌彦 (京都大学医学部附属病院)

・熊谷 健 (和歌山県立医科大学) ⇒越田繁樹 (滋賀医科大学医学部附属病院)

##### 中国・四国幹事

・三浦 真澄 (鳥取大学医学部附属病院) ⇒吾郷真子 (島根大学医学部)

#### 2) 都道府県代表

##### 宮城県

・渡辺 達也 (宮城県立こども病院) ⇒埴田卓志 (同左)

##### 兵庫県

・芳本 誠司 (兵庫県立こども病院) ⇒藤岡一路 (神戸大学医学部附属病院)

##### 奈良県

・西久保敏也 (奈良県立医科大学附属病院) ⇒内田優美子 (同左)

##### 和歌山県

・熊谷 健 (和歌山県立医科大学) ⇒利光充彦 (同左)

##### 鳥取県

・三浦 真澄 (鳥取大学医学部附属病院) ⇒宮原 史子 (同左)

### 4. アンケート実施における取り決め・明示 (杉浦 弘)

アンケート調査の増加による役員会諮問、NICU 代表への負担増が懸念される。アンケートの発出にかかる要件について以下の提案をした。

- ・ 研究責任者およびアンケート使用申請者が 1 年以上、新生児医療連絡会会員であること、ただし学会等の団体からの使用申請はその限りでない
- ・ 連絡会ホームページ上に掲載されている申請書フォームを用いて申請すること
- ・ 申請には倫理審査について言及が必要であること
- ・ 従来は NICU 代表の宛名シールを提供していたが、DX 化したアンケートに対応するため Google form 等による調査は連絡会が代理として発出すること

- ・ そのため、申請だけでなく、メール発出文面も必要となること
- ・ この申請をもって、従来の宛名シールの提供も適用されること
- ・ 研究責任者またはアンケート使用申請者の条件は、「1年以上」ではなく、「入会を条件に」として入会を促進し、執行部で判断できるようにしておいたほうがよい。
- ・ 内容については別途役員で諮問する。
- ・ アンケートについて研究費を取得している研究について有料とすることについて検討してもよいかもしれない。
- ・ MFICU 協議会の規約も参考に、協議会と連携しているならよいなど、検討する。
- ・ 「役員会で協議の上、対応できない場合がある」と明記しておくべきである。
- ・ 重要さと、労力を考えるべきである。
- ・ 以上の意見をもとに、執行部で再検討して、役員会メールで諮問した上で、早期にホームページで明示できるようにする。

## 5. NICU マニュアル第 6 版の制作（徳久琢也）

- 1) 編集責任者：細野茂春先生・徳久琢也先生・中西秀彦先生
- 2) 共同編集者：4～5 名を選出し作業を分担
- 3) 改訂規模：小規模改定、編集作業 1 年間と想定

### A. 編集委員からの説明（徳久）

- (1) 第 5 版から 10 年経過しており、内容の更新が必要。
- (2) 第 6 版の改訂は小改訂とし、第 7 版で大改訂を予定であった。
- (3) 第 5 版の執筆者で新生児医療の現場を離れられている先生方もおられるため、その負担を鑑みると、若手医師へ依頼する方が良いのでは、との意見あり。
- (4) 第 5 版からの 10 年間で、第 5 版には収載されていない新たな治療が NICU 内で一般化しており、内容の追加が必要。
- (5) 上記 3-4) を鑑みると、もう少し規模の大きい改訂が必要
- (6) 先の新生児医療連絡会役員会での NICU マニュアルの改訂は、「小改訂」で承認されている。新規項目については再度役員会において決定する。

### B. 役員会での意見（メール、出席者）

- (1) 「NICU マニュアル」の目的を確認。ベッドサイドで使う目的、研修医、看護師等、多職種が使いやすい内容とする。
- (2) 専攻医が一人当直時に利用しやすいものにする。
- (3) サイズについて、ポケットに入る程度の大きさで、もう少し小さく、ページ数も少ないほうが良い。
- (4) 保険収載されている治療を基本とする。
- (5) NICU での診療内容に特化する。「母体ステロイド投与、無痛分娩、NICU から始める位置的頭蓋変形予防、思春期発来異常、医療ケア児への支援制度と課題」等は他の成書での対応が良いのでは。

- (6) NICU 退院後の管理については、別冊やフォローアップマニュアルを検討する。
- (7) 新生児専門医試験に対応できる内容にするとの意見もあったが、試験は他の成書で対応すべきで、NICU マニュアルはベッドサイドでの使用しやすさが優先される。
- (8) 古くなった項目の削除（使われていない検査内容等）
- (9) 第 7 版は 2-3 年後を目標に大改訂する。
- (10) 第 7 版以降の方針を定める（もっとコンパクトにする、内容を吟味する）。

#### C. 方針

- 第 6 版は NICU の診療に即した最低限新規項目の追加が主で、大改訂は第 7 版で予定。
- 下記の新規追加項目について、役員会にアンケート、意見の集約を図り第 6 版の改訂方針とする。「母体ステロイド投与、無痛分娩、母体精神疾患（精神疾患患者からの出生児）、NICU から始める位置的頭蓋変形予防、出生時・乳児期の外性器異常、性分化疾患：出生時の対応、思春期発来異常、EtCO<sub>2</sub>、脳機能モニタ（aEEG）、声門上気道デバイス、胎盤血輸血、低侵襲サーファクタント投与（INSURE/LISA）、医療ケア児への支援制度と課題」

補足：第 1 刷のみ原稿料が執筆者に支払われ、以降の印税は新生児医療連絡会の収入となる。著作権は出版社に帰属している。

#### 6. 厚生労働省への出向推薦（杉浦 弘・祝原賢幸）

前回の役員会で議題にあがった厚生労働省への出向推薦の件について、帝京大学の置塩先生から 2025 年度での出向がおそらく可能であるとの申し出があった。祝原委員・寺澤委員より、新生児医療連絡会から推薦する場合、周産期医療に関係する省庁部門である方が望ましいと考えられるが、配属は 2 年毎であるため 2025 年度に出向すると他の部門に配属される可能性がある。出向者の意向も踏まえてタイミングを図る必要がある。さらに、継続的に出向できるよう人材を発掘していく必要がある。新生児成育医学会教育委員会主催の 2024 年教育セミナーにおいて、若手医師向けに厚労省での仕事内容について紹介する予定である。

#### 7. 事務委託費の定額（杉浦 弘）

前回の役員会で定額化の承認が得られたが、資料を用いて金額の決定の経緯について説明した。コロナウイルス関連で一時的に事務局作業費が減少したが、その後、再増加傾向にある。今回、18万円と設定し、必要に応じて見直す予定である。ニュースレター編集・構成比は4,000円×頁数である。

意見はなく、承認された。

## 8. News Letterの発行形態 (杉浦 弘)

現在は紙の冊子を発行し毎年2月に年会費請求とあわせて会員に頒布しているが、冊子体の発行とあわせてPDF版の会員専用サイトへの掲載案について審議を行った。今後については、同意を得て会員専用サイトへの掲載をする。過去の掲載内容についても、要望があるものに関して掲載することを検討してもよいかもしれない。

以前のアンケート調査や総会講演内容は、会員専用ページと一般ページの両方に掲載されている。これらを整理したうえで継続審議することとなった。

## 9. 会員名簿の供覧について (杉浦 弘)

会員専用サイトにて会員名簿を供覧可とする。ホームページ構築費が必要となる。以上について承認された。

## 10. R6年度診療報酬改定についての情報共有 (杉浦 弘)

まずは、現場の状況を調査して把握し、今後の方針決定のための情報とする。調査が重複することをさけて、小児科学会、周産期・新生児医学会、新生児成育医学会に新生児医療連絡会から働きかけて、合同で調査ができるようにする。

地域周産期センターの中に管理料1から2に変更する施設があることが報告された。都市部と地域の対応を変更するなど、個別の意見を収集する必要がある。

5月頃に、新生児医療連絡会の情報提供および協議ができる会をWebで開催する予定としている。

以上について承認された。